

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100388		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター和歌山城北 けやき		
所在地	和歌山県和歌山市二筋目11番		
自己評価作成日	平成26年7月14日	評価結果市町村受理日	平成26年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigekensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3090100383-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022">http://www.kaigekensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3090100383-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年9月18日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るい笑顔はみんなの宝」をホームの理念とし、食事に力を入れています。食べる楽しみを持っていただけるよう、特別な料理ではないですが、家庭的な料理を手作りで提供させていただいています。また、家庭菜園で収穫していただいた野菜で料理を提供もしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームの理念である「明るい笑顔はみんなの宝」は、利用者の笑顔が見たいとの職員の強い思いが込められており、利用者の笑顔を引き出せるよう具体的に5つの支援項目を皆で考え掲げています。職員が利用者に笑顔で挨拶や言葉がけを行うことを接客マナーの基本に理念を意識したケアとなるよう努めています。本年度は家庭的な手作りの料理を提供し食べる楽しさに重点を置き、利用者の笑顔につなげることを目標にし、料理の苦手な職員も利用者に喜んでもらえるよう料理の得意な職員に教わりながら支援しています。また、地域の防災訓練では小学校の避難場所へ全利用者と避難すると共に小学生の劇も見学したり、ホームを知ってもらえるようイベントの案内を地域へ発信するなど、地域交流を深めるために取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るい笑顔はみんなの宝」という理念を掲げ、食事に力をいれている	開設時からの理念「明るい笑顔はみんなの宝」の見直しを職員と検討し、現理念を継続しています。日々のケアの中で利用者の笑顔をひきだせるよう具体的な支援方法を考え実践しています。各ユニットが月毎に管理目標を立て、会議で理念に沿ったケアとなっているか振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会の慰問や行事、イベントの際のボランティアの訪問もある。近くのスーパーや神社、花見などに出かけ、散歩の機会を増やすことにより、地域と関わりを持っている	薬局の薬剤師から地域情報をもらっており、敬老会や初詣、夏祭りの行事に出かけた際や散歩時に出会った方と挨拶を交し合っています。毎月ホームでイベントを行い、新企画としてバイキングを取り入れた際には地域へ案内のチラシを配布し、家族が参加しています。近隣の他事業所との交流は恒例に行い顔馴染みになっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会を通じて地域貢献しようとするが、実施出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括職員、居宅療養管理者、他事業所の管理者、家族等で構成され、ホームの状況を公表し話し合い、意見交換を実施している	会議は、家族や地域包括支援センター職員、認知症支援協会の役員、薬剤師等の参加の下、2ヶ月に1回開催しています。ホームの行事や運営状況等の報告後、意見やアドバイスをもらい運営に活かしています。他事業所の夏祭りのやり方やアドバイスをもらったり、薬剤師から医薬品の説明をしてもらっています。会議の内容は全家族に郵送し伝えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、意見交換している	管理者の交替時に挨拶に行き、分からない事や相談每があれば市へ出向いて、実情を伝え助言を得ています。研修案内が届き、市の担当者も出席した研修に参加し、良好な関係が築けるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会の設置、勉強会、ミーティングを実施している	年1回身体拘束について研修を行い、伝達研修や欠席者には資料を配り周知しています。身体拘束委員会が中心となり、言葉による行動制止も含め具体的な事例を挙げ学んでいます。玄関やフロアの出入り口は施錠せず、自由に出入りが出来、外に行きたい様子があれば付き添ったり、気分転換など利用者に寄り添っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会の実施している		

ニチイケアセンター和歌山城北(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前アセスメント、書類の読み合わせ、説明を実施し、疑問点や質問の有無の確認をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、運営推進会議で意見を頂いた時には、ミーティングを開き、議事録は公開している	家族の訪問時に担当職員が声をかけ、意見が出しやすくなるよう心がけ、電話や毎月手紙を発送する際に意見を聞いています。法人が「顧客満足度調査」を年1度行い、出た要望や意見は職員間で検討し、サービスの向上につなげています。芝居が見たい利用者の思いを実現させたり、外出の要望を受け、ドライブや散歩の機会を増やしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議、業務ミーティングなどで意見を聞き反映するようにしている	月1回、ホーム会議と業務ミーティングを行い、ケアについて意見を出し合っています。また管理者は、職員の日ごろの様子や表情を見て気になることは、さりげなく聞くように心がけています。腰痛について出された意見より、職員間でサポートしながら連携を図れる体制作りに向け話し合いをしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社によるスキルアップ手当があり、スキルアップする機会がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社のスキルアップ研修、ホーム内での勉強会の実施、外部での研修の業務調整を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議への参加、イベント等へ参加し交流をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前アセスメント、入居時カンファレンスで利用者の意見、要望を聞く機会を設けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前アセスメント入居時アセスメントで家族の意見、要望を聞く機会を設けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問合わせ時、内覧時にホームでの生活に適しているか、家族の話聞きながら判断している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意思を尊重し、出来る限り残存機能を活かしながら生活機能の維持向上をスタッフと共に実施している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とケアの方針について、面会時等にカンファレンスを実施している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には馴染みのもの、好きな物を出来る限り置くようにし、家族が制限されるかた以外は、9時から18時まで面会できる	友人や近所の方、親戚の訪問時に居室でゆっくり過ごしてもらえるように支援しています。年賀状や暑中見舞いを職員と一緒に書いたり、利用者と一緒にポストに投函しています。家族と外食に行く時は、電話の取次ぎや利用者の状況を伝えています。ドライブの道中で懐かしい場所を通る時に利用者の昔話に傾聴し、なじみの人や場所との関係が続くよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る限り利用者全員参加できるレクリエーションを提供するようにし、出来ない方には、職員がサポートをしたり、別のレクリエーションを提供している		

ニチイケアセンター和歌山城北(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了は入院が多く、お見舞いに行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向の表明できる方は、出来る限りそれを尊重し、出来ない方については、日々の生活の中で本人本意の生活を探すように努め、それを家族と検討している	入居前はホームの見学時に家族の意向を聞き、自宅で面接する際に利用者の思いや意向など聴いています。入居後の関わりで気づいたことや新たな情報、家族が記入した生活歴などを参考に意向や思いを把握しています。計画作成担当者は、様々な情報をアセスメントシートに追記し、職員間で共有しています。困難な時は、家族や前のケアマネジャーに聴いています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話、家族からの情報提供を共有出来る様に記録している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子を毎日記録、医療機関対応時の記録を行い、申し送りし現状が把握出来る様にしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、本人や家族の意見を取り入れケアプランを作成している	アセスメントや本人・家族の意向や思いのもと、初回の介護計画を作成しています。1ヶ月後に再アセスメントを行い、2回目の計画を策定しています。計画作成担当者が実施状況を日々の記録で確認し、サービス担当者会議では、職員の意見や事前に聞いた医師、家族の意見も反映させ、3か月毎にモニタリングと見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア内容や活動を介護記録に記入し、情報を共有できるようにし、必要時にはカンファレンスを実施している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護、訪問マッサージ、訪問歯科、皮膚科の往診、訪問理容、居宅療養管理のサービスが入っている		

ニチイケアセンター和歌山城北(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの活用、外注を利用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各利用者の主治医と連携し、定期的な往診、緊急時に指示をいただけるように連携している	かかりつけ医を継続できることや協力医について説明し、ほとんどの方が協力医に変更しています。眼科など家族との受診時は、介護サマリーで情報を提供し、受診の報告を受けています。協力医には月1回の往診に来てもらい、訪問看護師の状況判断で協力医へ往診の依頼をし、24時間連絡できる体制です。皮膚科、訪問歯科、訪問リハビリの希望者は、往診を利用しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護によるバイタルチェックがあり、様子を伝えている。また状態が悪い利用者が居る場合には、連絡すると指示時を頂けたり状況によって来ていただける		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に病院へ訪問し状態の把握、退院について、病院と家族と話し合い、受け入れ状態を整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、訪問看護、家族と終末期の方針を話し合い、職員間でもカンファレンスを行い、決めた方針を連携して支援している	契約時に重度化や終末期について、ホームとしての方針などを説明し、家族の意向を聞いています。重度化してきた状況を職員が家族に伝え、主治医と看護師から医療的なことを説明してもらっています。家族の意向を大切にされた看取りの支援は、医師、訪問看護師、家族と方針を共有し、看護師からアドバイスをもらい、管理者がサポートに入る体制の中で職員は看取りを自然に支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応を見える所に掲示している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回実施し、緊急時の避難場所を掲示している	年2回実施する避難訓練は昼夜を想定して行い、内1回は消防署の協力の下で夜間を想定し、通報、初期消火の他、車椅子の方の避難方法のアドバイスをもらっています。地域で行う防災訓練に全利用者と一緒に参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナー研修を定期的実施し、声掛けは笑顔で行うようにしている。また受容、傾聴、共感を大切にしている	年1回接遇マナーについて研修を行い、全職員が参加し周知しています。挨拶は接遇の基本とし、利用者の側で同じ目線でゆっくりと笑顔で声をかけています。また、羞恥心に配慮したトイレへの声かけ、誘導を心がけています。不適切な対応があれば場所を変え管理者が注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物、余暇の過ごし方などを中心に出来る限り自己決定してもらっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間、入浴の時間以外は自分の好きな場所で生活していただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を着ていただいたり、訪問理容時には髪型を自分で決めていただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭菜園の野菜を収穫していただき、それを提供することにより、食事に対する楽しみを作っている。また誕生日には、食べたい物を聞き提供している。食事の準備、片付けはスタッフが実施しているが、お盆を拭いていただいている	利用者の食べたい物を聞き、職員が献立を立てています。時折利用者と買い物に行き、味見や豆の皮むき、盆拭きなどできる事に携わってもらっています。利用者は種を取る作業やサツマイモ、南瓜を菜園で作り、職員は利用者から教わりながら収穫した旬の野菜を食材にして食事作りを楽しんでいます。弁当や刺身定食の外注の他、イベントでバイキングやお好み焼きなど取り入れ、食事が楽しめるよう工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを行っている。必要に応じ、トロミの使用、刻み食の提供を行っている。個々の食事量や体格により盛り付けを加減している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕食後は介助、もしくは自己にて口腔ケアの実施、夕食後は義歯を洗浄液で浸け保管している		

ニチイケアセンター和歌山城北(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行い、失禁とならないように定期的にトイレ誘導を行っている。1名が立位困難であるためトイレ誘導が出来ていない状況である	個々の排泄の記録よりパターンを把握しています。個々に合わせた声かけや見守り、誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援しています。行動やサインを見逃さないよう声かけを行うことで失敗が減り、自信を取り戻すなど、排泄の自立に繋がった事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の食品や果物を多く摂取していただき、水分補給と適度な運動を促しているが、緩下剤を使用している利用者が6名いる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時に本人の意思を確認し入浴の介助を実施している。時間帯は決めている	毎日入浴の準備を行い、午後の時間帯で週3回から4回を目途に入浴してもらい、希望に沿って毎日の入浴にも対応しています。入浴が嫌いな方には、入りたい気持ちになってもらえるよう声かけやタイミングなど、工夫し入ってもらっています。柚子やミカンの皮を使うこともあり、ゆっくりと入浴を楽しんでもらえるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中であっても、休みたい方には休んで頂いている。また定期的に布団を干し、シーツを洗濯している。室温管理をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	会社独自のマニュアル、居宅療養管理制度の導入により、誤薬防止を徹底している。また服薬、確認は2名体制で実施している。薬の効能等を書いたファイルがある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出レク、散歩、月に1回のお楽しみ会、誕生日会を実施している。毎日のレクリエーションでは、出来る限り趣味嗜好に合わせたものを提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や利用者の体調、精神面を考慮しながら散歩をしたり、家庭菜園の野菜収穫をしていただいている	天気の良い日は、ほとんど毎日夕方から全員の方が散歩しています。公園や神社に出かけたり、ドライブやバスで加太国民休暇村へ行くなど楽しんでます。桜の花見は家族も参加しています。菜園の収穫時期やウッドデッキでお茶を飲みながら外気に触れる機会を作っています。	

ニチイケアセンター和歌山城北(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、利用者はお金を保持しておらず、お小遣いとしてホームで管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いのはがきを出したり、家族へ電話出来る様に家族と連携している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	イベント時の写真の展示、利用者の作品の展示している。また手すりや目印もあり安全面も考慮されている。	玄関前にベンチを置き、季節の花をプランターに植え、リビングの壁に菜園で収穫している時の写真や季節が感じられる手作りの作品を飾っています。畳のコーナーで洗濯物をたたんだり、座椅子、テレビ、机、新聞などを置き、生活感が感じられます。職員は毎日、共有空間の清掃、清潔、整理整頓、温・湿度の管理など、居心地の良い環境作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや和室で自由に過ごしていただき、入居者同士話をして過ごしていることもある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具、写真等を置いている。危険がないように家具に位置も考慮している	入居時に使い慣れたものを持って来てもらうよう伝えてあります。エアコンとクロゼット、カーテンは備え付けですが、タンス、テレビ、扇風機、椅子など持ち込み、配置は安全にも配慮しています。家族の写真や仏壇、遺影、本等、大切にしている馴染みの物に囲まれ、その人らしく暮らせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に合わせて出来ない事を出来る様に支援している。またホーム内は段差が少なく、手すりも付いているので、安全に移動が出来る様になっている。		